

未来の子どもたちに残したい長久手の自然

日時：平成31年3月10日（日）午後1時から午後4時まで

場所：長久手市福祉の家 集会室

参加人数：80人

プログラム：【基調講演】「人間と自然環境」

【市民活動団体の取組発表】「杣ヶ池プロジェクト」

「二ノ池湿地群保全」

【パネルディスカッション】「人と自然環境との共生について」

講師及びパネリスト：

講師及びパネルディスカッションコーディネーター

増田 理子（名古屋工業大学 社会工学専攻 環境都市分野 教授）

パネリスト

岩渕 準（NEXPO長久手・万博継承会 事務局長）

富田 啓介（愛知学院大学 教養部 専任講師）

長谷川 明子（ビオトープ・ネットワーク中部会長）

水岡 恵子（長久手湿地保全の会 代表）

助成：（公財）瀬戸信用金庫地域振興協力基金

基調講演

「人間と自然環境」をテーマに名古屋工業大学の増田理子先生に講演していただきました。まず、長久手の自然を、地層や植生、地球環境問題と関連付けて、その特徴と大切さを説明してくださいました。次に、参加者の方に長久手の生きもののなかで、それぞれの推しメンを決めてもらい、それらを守っていくためにはどうしたらよいか教えていただきました。一例として、あげていただいたのは、水の循環を大切にすることでした。長久手の自然は、水によって支えられていて、次世代に伝えていくには水を無駄使いしないことや水を汚さないことが身近な行動としてできることだと教えていただきました。



取組発表

「杵ヶ池プロジェクト」をテーマにNEXPO長久手・万博継承会事務局長の岩渕準さんが、これまでの外来種のカメの駆除活動について発表してくださいました。専門家を招いて勉強会や調査を行うなど、積極的な活動により、今年度の外来種のカメの捕獲数が、初年度と比較すると約10分の1に減っていることには驚きました。



続いて、「二ノ池湿地群保全」をテーマに長久手湿地保全の会の水岡恵子さんが、会の発足から現在に至るまでの活動の様子と、二ノ池湿地に生息生育する生きものについて発表してくださいました。会の活動により湿地が再生され、湿地固有の植物が増えたことが分かりました。

パネルディスカッション

「人と自然環境の共生」をテーマに、増田先生のコーディネートのもと、各パネリストから「長久手の自然について感じること」を発表していただき、発表に対して参加者の方からご質問・ご意見をいただくかたちで進行了ました。

岩渕さんは、「長久手の開発と緑」をテーマに都市開発の進展によって、緑が分断されてしまったことをあげて、自然環境保全を行っていききたいと話してくださいました。





富田先生は、「長久手の『里湿地』」をテーマに、地域資源として湧水湿地を大切に、レクリエーションや学びの場としても湿地を守っていきたくと話してくださいました。

長谷川先生は、「真に美しい『ここにしかない』まちに」をテーマに、都市部では人工的に緑化工事を行っている例をあげて、長久手では緑化工事をしなくても貴重な自然が残っていて、今あるものを大切に保全していくべきと話してくださいました。



水岡さんは、「長久手の自然について感じる事」をテーマに、長久手の独特な自然について紹介して下さり、これらの魅力を多くの人に知ってもらい、次世代に残していくために活動したいと話してくださいました。



ご質問・ご意見

質問①：東山地区に田圃を持っている方

「ウシガエルが外来種だったことに驚きました。見つけた場合はどうすればよいですか？」

岩渕さん：外来種を見つけた場合は駆除するしかないと思います。どれが外来種かわからないときは、写真を付けて市役所に尋ねてみるとよいと思います。

長谷川先生：卵の時に集めてなるべく干からびる場所にもって行って、他の生き物のエサにしましょう。生態系を回すことが大事です。また、子どもには外来種の駆除を通じて、命の大切さを教えることも非常に重要です。



質問②：長久手南里山クラブの方

「サンショウウオの繁殖活動を行っていますが、今年はなかなか姿を見せてくれません。自分では乾燥が原因だと思います。例年ならば雨が降ると山から水が流れてきますが、今年は水が流れてきません。この状態は今後続くのでしょうか？ また、猫の被害により、カモやキジがいなくなった気がします。サンショウウオもその被害を受けているのではないかと心配ですがどうでしょうか？」

富田先生：全国的に湿地では乾燥が問題になっています。周りの植物の繁茂が大きな原因であると考えます。また、周りが都市化していることも原因であり、これらの要因が重なっていると思います。繁茂した木を間伐することが大事です。また、生物は年によって卵を産むときとそうでないときがあります。数年様子を見て判断するとよいです。



水岡さん：自分が活動している場所では、木や草を間伐すれば水は出てくるように思います。南部についても同様の状況ではないかと思っています。

増田先生：間伐くらいでは変わらないこともあります。そんなときは裸になるくらい切るべきです。ただ、今年の冬は乾燥していたので、例年よりも水の出は悪いと思います。

長谷川先生：野ネコについては全国的に問題で、サンショウウオが被害にあっている可能性はあります。看板を設置して啓発しながら里親を探すことが重要です。愛護団体とも上手に付き合いながら、市と連携して対処する必要があります。

最後に

今回のシンポジウムは、市民活動団体の方々や増田先生を始め専門家の方々にご協力をいただいで開催できました。これからの保全活動の際にも、専門家の方々にご意見をいただきながら、市民の方々と協力して、長久手の豊かな自然を次世代につないでいきたいです。

